

俳句とは朝寝の後のあくびとも
人生の朝寝の日数増やしけり
地球より重き命や大朝寝
朝寝の句詠んで眠たくなりけり
早寝には疎く朝寝には親し
朝寝してさうかその手があつたのか
朝寝してわが世の春を楽しまん
春のものみな美しや朝寝せむ
老人に花の朝寝と云ふがあり
朝寝してけふの日永を考へる
雨もまた楽しからずや朝寝して
ふたたびの雨音を聞く朝寝かな

恐竜の朝寝の朝や木々の雨
春雨を聞くや朝寝の夢の中
遠浅を引かるる如く朝寝して
朝寝する頭を乗せて枕かな
空腹も尿意も宥め朝寝坊
空腹を宥めつつ朝寝坊かな
朝寝して聞くや大根を刻む音
朝寝して長湯してまた眠らんと
アパートの畳の部屋の朝寝かな
惜しまれて朝寝のふとん畳まるる
許されよ朝寝のための旅の宿
朝寝して猫と仲良くなりけり

てふてふは朝寝知らずにひらひらと
蝶々に朝寝の事はなかるべし
啓蟄の蛙蛇蟻我朝寝
朝寝から覚めて蛙となりけり

- 一 俳句とは朝寝の後の大あくび
- 一 人生の朝寝の日数増やしけり
- 一 早寝には疎く朝寝には親し
- 一 朝寝して「さうかその手があつたのか」
- 一 果報なり朝寝のホ句を賜りて
- 一 朝寝してわが世の春を楽しまん
- 一 春のものみな美しや朝寝さへ
- 一 老人に花の朝寝と云ふがあり
- 一 朝寝してなほたつぷりと日の永し
- 一 恐竜の朝寝の朝や木々の雨
- 一 朝寝する頭を乗せて枕かな
- 一 空腹の快きかな朝寝坊
- 一 朝寝して聞くや大根を刻む音
- 一 朝寝してぬる湯してまた眠るべし
- 一 アパートの畳の部屋の朝寝かな
- 一 惜しまれて朝寝のふとん畳まるる
- 一 許されよ旅の朝寝の為体
- 一 朝寝して猫に叩かれ叱られて
- 一 てふてふは朝寝も知らずひらひらと
- 一 蝶々に朝寝の事はなかるべし
- 一 啓蟄の蛙蛇蟻我朝寝

- 一 俳句とは朝寝の後の大あくび
- 一 人生の朝寝の日数増やしけり
- 一 早寝には疎く朝寝には親し
- 一 朝寝して「さうかその手があつたのか」
- 一 朝寝から覚めて賜るホ句ひとつ
- 一 朝寝してわが世の春を楽しまん
- 一 朝寝してまだたつぷりとある日かな
- 一 恐竜の朝寝の朝や木々の雨
- 一 朝寝する頭を乗せて枕かな
- 一 空腹と付かず離れず朝寝坊
- 一 朝寝して聞くや大根を刻む音
- 一 朝寝してぬる湯してまた眠るべし
- 一 アパートの畳の部屋の朝寝かな
- 一 惜しまれて朝寝のふとん畳まるる
- 一 許されよ旅の朝寝の為体
- 一 朝寝して猫に叩かれ叱られて
- 一 てふてふは朝寝もせずにはひらひらと
- 一 蝶々に朝寝の輩はなかるべし
- 一 啓蟄の蛇、蟻、蛙、吾は朝寝